

2022年8月31日

**SUBARU 運転支援システム「アイサイト」搭載車の世界累計販売台数 500 万台を達成**

SUBARU が販売する運転支援システム「アイサイト」搭載車の世界累計販売台数が、2022年6月に500万台を達成しました。2008年5月に日本で発売して以来、14年1カ月での達成となります。

アイサイトは、世界で初めてステレオカメラのみで、自動車だけでなく歩行者、二輪車までも対象としたプリクラッシュブレーキや、全車速追従機能付クルーズコントロール等を実現したシステムで、現在、SUBARU の世界販売に占めるアイサイト搭載車の比率は約91%<sup>\*1</sup>に上ります。

アイサイトは、日本、米国、欧州をはじめとする世界の第三者機関の安全性能評価において常にトップクラスの評価を獲得するとともに、日本国内の事故件数調査でアイサイト(ver.3)搭載車の追突事故発生率は0.06%<sup>\*2</sup>、また、米国IIHSの調査では、アイサイト搭載で負傷を伴う追突事故が85%低減される効果が示される<sup>\*3</sup>など、ステレオカメラの優れた認識性能を強みにSUBARUの予防安全性能向上を支えてきました。

SUBARU の車載用ステレオカメラ開発の歴史は1989年以来30年以上に上ります。ステレオカメラ技術を核にアイサイトは進化を続け、2020年の新型レヴォーグで初採用された新世代アイサイトでは、視野を大幅に広げた新開発のステレオカメラと画像認識ソフト・制御ソフトの改良を組み合わせることで、より幅広いシチュエーションの運転支援が可能になりました。さらに日本では、新開発ステレオカメラに前後4つのレーダーや高精度地図ロケータなどを組み合わせた高度運転支援システム「アイサイト X」を展開。車線変更支援、カーブ前速度制御、渋滞時ハンズオフアシストなど、自動車専用道路をより安全・快適に移動できる最新機能を提供しています。

また、SUBARU は2020年にAI開発拠点「SUBARU Lab(スパララボ)」を渋谷に開設し、ステレオカメラ技術にAIの判断能力を融合させることで安全性をさらに向上させる研究開発を進めています。

SUBARU は今後も、SUBARU の総合安全思想の軸である「0次安全」「走行安全」「予防安全」「衝突安全」「つながる安全」を追求し、世界中のお客様へ「安心と楽しさ」を提供していきます。

\*1: 2021年販売実績ベース。他社からのOEM供給車を除く。

\*2: 2014~2018年に発売したアイサイト ver.3 搭載車数(456,944台)と、公益財団法人・交通事故総合分析センター(ITARDA)のデータ(追突事故数:259件)より、SUBARU が独自算出。

\*3: 米国保険業界の非営利団体 Insurance Institute for Highway Safety(道路安全保険協会)による、2013~2015年型SUBARU車を対象とした2014年末までのデータに基づく調査(2017年1月時点データ)。